

## 「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2019 KDDI 総合研究所賞 記念対談



【写真右：株式会社 KDDI 総合研究所 木村寛明取締役執行役員 フューチャーデザイン 2 部門長】

【写真左：株式会社 HealtheeOne 小柳正和代表取締役社長 CEO】

先般実施された「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2019 において、株式会社 HealtheeOne が KDDI 総合研究所賞を受賞したことを記念して、令和 2 年 2 月 12 日、株式会社 KDDI 総合研究所 木村寛明取締役執行役員フューチャーデザイン 2 部門長と、株式会社 HealtheeOne 小柳正和代表取締役との間で対談が行われました。

---

### 受賞のポイント

---

（事務局） 木村取締役から受賞のポイント等についてお言葉いただければと思います。

**木村** 小柳さんとは受賞後、何度かお話しさせていただいておりますが、非常に素晴らしい取組みをされており、今回の KDDI 総合研究所賞に選定させていただきました。今回の受賞のポイントは 3 つございます。

一つ目は、医師不足や休日夜間の救急診療体制構築といった地域医療の課題解決を目指す活動を、いわき市を拠点として東北地域の活性化に繋げて活動をされていることです。

二つ目は、医療クラウドをはじめとする ICT を有効に活用して、医療のデジタルトランスフォーメーションを実践している点です。

三つ目は、スポーツドクターといったテーマを設けて、クラブチームや行政などの異業種関係者を巻き込み活動している点です。

このような取組みにより、ICT を活用していわき市の医療をサポートする体制を築いた点を高く評価させていただきました。



**小柳** ありがとうございます。ICT の活用を含めて、実際は泥臭く活動を続けてきまして、5～10年単位で築き上げてきたものです。また、行政の皆様や異業種の皆様と一緒に取り組むことができたことは幸運なことでもあり、良いモデルケースにもなったと思っています。本取組みはいわき市に限った話ではなく、他の自治体の皆様にも真似をして取り組んでもらいたいと思っています。今回、私たちの活動を評価していただいたことは非常に励みになりました。

---

### 取組み紹介

---

(事務局) 続きまして、いわきFCクリニックの取組み等について改めてお話しいただければと思います。

**小柳** はじめに、いわきFCクリニックの説明する前に、私が地域医療に取り組むきっかけの話をさせてください。そもそも私は医療の素人でIT事業に取り組むビジネスパーソンでした。医療に携わることになったのは2009年の父をいわき市の自宅で看取ったことがきっかけです。当時私は東京都内在住でしたが、父の看病のために毎週末に片道3時間・運賃3千円ほどの高速バスでいわき市と東京を往復する生活を送っておりました。私は比較的幸運でした。例えば実家が福岡や大阪等の遠方の場合は経済的な負担が大きく限界があると感じました。このことを機に医療サービスの勉強を始めました。その後、2011年に東日本大震災が発生し、福島県の医師不足が大きな社会問題となりました。私はプロボノとして、いわき市役所に医療政策の提言をさせていただき、自らの活動で一定の成果を得ることができました。しかしながら、提言しただけではなく、如何に実行するかが重要になります。行政や医療従事者の皆様は日々の実務に追われていて、なかなか時間が割けない。そこでデジタルやAIの力を借りてプランを実行できる組織を作りました。これが株式会社HealtheeOneです。HealtheeOneは地域医療を守る現場の医療従事者の皆様が本来業務に注力いただくために、それに付随するバックオフィス業務を我々のアプリケーションで自動化する、あるいは肩代わりするサービスを提供しています。

(事務局) 医療政策の提言の経験があったのでしょうか。

**小柳** 総合商社に勤務していた時に各種プロジェクトをコンサルの方々と協働した経験がございます。また、フランスのビジネススクールに留学させていただいたこともあり、そのような経験を活用して独学で政策提言をさせていただきました。また、私はボランティア活動をいくつか行っており、その中の一つで2007年にフランスで環境NPOのチームを立ち上げて、パリ市内のゴミ拾いに取り組んでいたことがあります。帰国後の2014年に同様の取組みを行っている団体がいわき市にもあることを知り、活動に参加する機会がありました。その団体は地元の社会人サッカークラブだった「いわきFC」のメンバーが集まって活動しており、ゴミ拾いが縁でアマチュ



いわきFCクリニック

アサッカーチームの活動にもボランティアで関わることになりました。

次に、今回表彰をいただきました「いわき FC クリニック」についてご説明します。まず「いわき FC」のチーム自体は、アンダーアーマーの国内総代理店である株式会社ドームが設立した株式会社いわきスポーツクラブが 2015 年末から運営しています。「いわき FC クリニック」は国内サッカークラブ初の商業施設付きクラブハウス「いわき FC パーク」内に開業した「クリニック」と「整骨院」を併設させた施設で、HealtheeOne といわき FC が共同運営しています。いわき FC クリニックではスポーツ医学を学ぶ若手医師が首都圏からいわき市に集結し、休日夜間は救急医療のゲートキーパーとして救急専門医や総合診療医などによる救急電話相談と必要に応じた診療を往診で行う一次救急を担っています。

統計等を確認すると、全国平均で人口 10 万人当たり約 250 名の医師がおりますが、いわき市は 3 分の 2 程度しかおりません。いわゆる医師不足が続いており、その原因の一つは「医師の偏在」と言われています。この偏在に対する解決策として、一般には遠隔医療や医師の人材紹介サービス等があります。

一方、我々は 2030 年代に向けて人口動態予測を考慮したところ、地方での医師不足は解消せず、医療の需要に対しての提供側の人数が 2020 年比で少なくなるという状況が恒常化するのではないかと考えています。いわき FC クリニックは地方都市の地域医療に関する社会課題を克服するための核となる拠点です。我々は特長あるクリニックのコンテンツで人を呼び込んだり、オンライン診療支援システムを利用したりと、技術的にも対処しやすい偏在解消を短期的には当然ながら考慮しています。しかしながら、より一歩踏み込んで、少ない人数で質を維持しながら 2030 年代の医療の需給バランスをカバーしていくことが重要と考えて行動しています。「偏在」だけではなく「絶対数不足の恒常化」に対する取り組みです。地域の特長を活かして医師を呼び込むという短期的な課題解決を図るとともに、デジタルトランスフォーメーション (DX)<sup>1</sup>を進めることで、2030 年代に向けたモデルケースとなる少人数での医療機関の運営を実現しています。デジタル化や DX をすることのメリットを言葉や資料だけで医療機関の皆様にご理解いただくことが難しいのが正直なところです。いわき FC クリニックは医療 DX を活用した医療機関としてのショーケースとなるように心がけてきました。いわき FC クリニックの設立にあたっては、いわき FC だけでなくいわき市役所や経済産業省東北経済産業局、いわき市医師会の皆様にもご支援頂いており、感謝しています。

(事務局) いわき FC クリニックの設立にあたって関係者とはどのような経緯で関わる事ができたのでしょうか。

**小柳** これも HealtheeOne 創業以前からの私のボランティア活動の一つとして誘致したものでしたが、2017 年 9 月に首都圏の医学生・若手医師 20 名ほどがいわき市で合宿をして、いわき市役所、いわき市医師会、いわき市病院協議会の皆さんといわき市の医師を増やす戦略についてディスカッションを行ったことがありました。その際に、医学生を始めとした参加者の皆さんから課題解決のためにいわき市の特長を生かすべきとのヒントとともに関係

---

<sup>1</sup> AI、IoT、ビッグデータ等のデジタル技術の普及に伴い、「ビジネスに IT を活用する」域を超え、デジタル技術を前提として、顧客価値の実現に向け、ビジネスモデルや組織、業務、企業文化・風土等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげていくこと

引用: 2020 年 1 月 6 日 経済産業省 <https://www.meti.go.jp/press/2019/01/20200106001/20200106001.html>

性も構築することができました。

---

#### 現状の課題・今後の可能性

---

**小柳** 私たちが立てた目標からするとまだまだ道半ばであります。試行錯誤の連続であり、昨日思ったことをすぐ翌日実行するといった仮説検証のプロセスを日々繰り返しています。今後もこのサイクルを早めて、精度を上げていきたいと思います。

国内医療現場の課題として、電子カルテに代表されるようなデジタルツールの普及率は全国的にはまだまだ高くないという印象です。また、ツールを導入したとしても業務効率化ができていないケースが多く見られます。HealtheeOneでは、外来や在宅医療を行うクリニック向けの商品・サービスも扱っておりますが、大きな病院向けの SaaS<sup>2</sup>と呼ばれるアプリケーションも販売しています。実際に使っていただいた方からは好評をいただいております。私たちの商品を使用すると労働生産性がどの程度上がるのかを数字で皆さんに見せることで、更なる販売促進につなげていきたいと思っております。



いわき市のすぐ北に位置する双葉郡では、緊急搬送先の選択肢にいわき市の医療機関が実質含まれています。しかしいわき市そのものが救急医療体制がひっ迫している状態にあります。これから福島第一・第二原子力発電所の廃炉作業を進めていく中で、万一に備えた体制が医療圏を超えて必要になってくると考えられます。いわきFCクリニックでは比較的軽症の方が休日夜間に電話で相談したり受診できるクリニックとして認知度を高めていき、大きな病院が本来の役割を果たせるように役割分担を実施する形で協力していきたいと考えています。

既に述べましたが、ミクロ地域単位や地域医療圏での社会課題として「医師の絶対数不足」や「需給バランスの悪化」があります。この課題は人口減少が見込まれる中では避けられないと考えられるため、いかに少ない人数で効率よく医療をできるかが重要になってきます。現場では最小人員でリアルとバーチャルを組み合わせた体制で組織を回せるようになることが望ましいと考えています。東北地域は震災の影響もあり、特に沿岸部は課題先進地域と言われています。東北地域での経験や事例は他の自治体にも活用できることが多いと思います。たまたま私はサッカークラブといういわき市の特長をコンテンツとして社会課題克服のために使いましたが、東北の各地域にはそれぞれのコンテンツが眠っていると思っております。

**木村** 小柳さんが仰られたように、デジタルの力で医師をサポートし、医師一人でも医療行為が行えるようにすることは人手不足の状況下において必然的に求められることだと思

---

<sup>2</sup> Software as a Service の略。クラウドで提供されるソフトウェアのことを指す。

ます。医療業界だけでなく、サービス業等でも、デジタルを活用して効率化する取組みが顕在化しつつあります。今後、5G の開始、普及に応じて、より高度なサポートが実現されると思います。

---

#### 東北復興に向けて

---

(事務局) 今後の東北復興についてお考えをお聞かせ下さい。

**小柳** 当社のチャレンジの一つとして、いわき市で起業したことが挙げられます。多くのスタートアップ企業は東京を中心とする首都圏で起業する方が多いと思いますが、IT 技術の進展により、地理的に離れている場所でもコンタクトを取ることが可能になっています。東京からいわきまでトンネルの少ない太平洋側を通る常磐線は電波状態がよく、特急も全席電源完備なので移動時間がそのまま生産時間にもなります。今後起業を目指している方々には、是非「いわき市」及び「東北」での起業にチャレンジしていただきたいと思います。

**木村** 我々のグループでは、起業家支援プログラム「Tohoku Future Builders」を支援しています。今後も東北発の起業が活発になっていくことを期待しております。また、東北地域の一次産業の支援や、次世代を担う子どもたちに地域の良さを知ってもらい地域に根付かせる活動も継続して取り組んで行きたいと思います。

